

三浦市立旭小学校

研究テーマ：すすんでかかわり、高め合う子 ～子どもたちが夢中になる単元づくりを通して～

1 実践の目的

「高め合う力」「自律する力」「行動力」、この3つの力を今の本校の児童に身に付けてほしい力であると考え、「生活科」と「総合的な学習の時間」で一昨年度から研究を進めている。2年間研究した成果を踏まえ、更に研鑽を深めるため、今年度も同じ教科、同じ研究テーマで3年目の研究を進めていこうと考えた。

研究テーマを達成するための手立てとして、①【探究力を育む単元構想】②【効果的な振り返り】の2点を設定した。

2 実践の内容

(1) 校内研究の組織体制

低・中・高学年に分かれて指導案検討、授業研、事後検討を行い、校内研究を進めた。また研究推進委員会を中心に、校内全体で「生活科」「総合的な学習の時間」の年間指導計画を共有し、子どもたちが夢中になる単元づくりについて検討した。

(2) 校内研修会

単元を構想するにあたって、学習材を検討する段階から、鎌倉女子大学短期大学部准教授である相澤昭宏先生を講師として招聘し、「生活科」「総合的な学習の時間」における単元づくりについてご教授いただいた。さらに授業実践を参観していただき、ご指導・ご助言をいただいた。

(3) 手立て1

【探究力を育む単元構想】

子どもたちの探究力を育むために教師が単元構想をもつことは重要である。ポイントとなるのは、次の3点である。

- ①育てたい資質・能力、学ばせたいこと、ゴールを明らかにする
- ②子どもの実態を踏まえ、思いや願いを想像し、取り入れる。
- ③材の特性を明確にする。

この3点をうまくすり合わせながら、単元を構想していくことによって、子どもたちは「すすんでかかわり、高め合う」ことができる考えた。

(4) 手立て2

【効果的な振り返り】

効果的な振り返りをさせるためには、めあて等の目的に沿った振り返りをさせることが大切になる。また、どのような力が身に付いたかといった資質・能力に対しての振り返りも取り入れ、達成感や成就感などを味わわせるようにした。

さらに教師にとっても振り返りをさせることは大きな意味をもつ。本時のねらいの達成を把握したり、次時への課題設定に活用したりすることができる。また、材が適切であるか捉え直す指標にもなる。

このように、効果的な振り返りを子どもと教師の両者が行うことで、「すすんでかかわり、高め合う」ことができる考えた。

3 実践の成果と課題

(1) 校内研究の組織体制

低・中・高学年で分け、少人数のグループにしたことにより、時間調整しやすく気軽に検討ができた。また、目指したい子どもの姿を共有することで、研究の軸がぶれることなく進めることができた。

(2) 校内研修会

忙しい中でも、3月下旬や5月上旬に、講師の先生や指導主事を招聘し、各学年の学習材や単元構想について検討できたことはよかった。また公開授業研究会では、講師の先生に本校の研究テーマに則した内容でご講演いただき、多くのことを学べた。

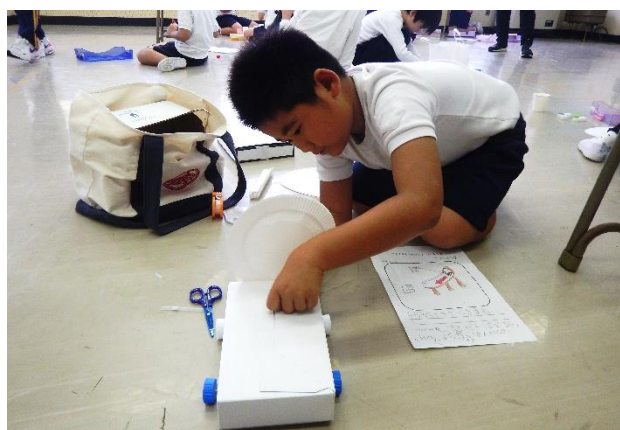
(3) 手立て①

【探究力を育む単元構想】

単元構想を十分に行うことで、ゴールを見据えた指導ができただけでなく、子どもの実態と活動内容が一致し、「もっとやりたい」という声も聞くことができた。そのためは、学習材が子どもたちに合っているか考えることも大切であり、子どもが活動していく中で新たな課題を見出し、問題解決していくという学習をつなげていくことが重要だということが分かった。



＜4年生＞幼稚園の子どもたちに読み聞かせをしている様子



＜2年生＞設計図をもとにおもちゃづくりを行う様子

(4) 手立て②

【効果的な振り返り】

振り返りを継続して行うことで、書くだけでなく、書いたことを自ら振り返り、「そういえば・・・」と、話し合いのときに立ち返ることができるものとなっていた。教師側においても、普段から振り返りをもとに課題設定につなげたり、子どもたちの思考から次の活動を考えたりすることができた。

4 今後の展開

生活・総合は学級経営の一助となり、とても大切な教科であることを実感できた。来年度に向けて、改めて本校の子どもたちに、今身に付けてほしい力は何かということ、職員全体で考え共有し、まとめていく必要がある。その結果によって、研究していく教科やテーマを定めていきたい。

今年度は、学校研究によって子どもたちがどう変容したのかという実態把握が、教師目線でしかできなかったのもので、来年度はアンケート内容をさらに活用し、その結果を受け止め、生かしていく研究をすすめていく。